



倶知安町の在来線のあり方については 町長 総合的に対応していく

問

北海道新幹線新函館北斗ー札幌間の開業を11年後に控え、倶知安駅の開業を見通したまちづくりについて伺う。

① 倶知安町としての在来線のあり方についてはどのような立場なのか。

② 並行在来線の協議はどこまで進んでいるのか。

③ どのように事業者や関係団体等と意見交換しながら、駅周辺整備計画を策定していくのか。

町長

① 並行在来線対策協議会の場合において検討されていることを踏まえ、今後その必要性について総合的に対応していく。

② 平成24年に協議会が設置されてから29年までに5回の協議会が開催された。今後の議論を加速するため、存廃の判断資料として駅乗降客等の調査及び並行在来線の存続問題に対する各沿線自治体の考えを改めて確認するべく、各首長との意見交換を検討していくとの報告を先日受けた。

③ 在来線の存続廃止の問題の結果は、本町のまちづくりにおける駅周辺施設の配置や交通

結節機能等に非常に大きな影響を及ぼしてくる。そのため、

計画を策定するにあたり解決しなければならぬ課題解決を図るためにも関係機関、関係団体や町内会等と意見交換を行う場を設け、官民一体となつて取り組む考えである。12月を目途に素案を示したい。

問

意見交換、情報共有で機運を上げていくのも大事な部分では。

町長

しっかり取り組んでいきたい。

公約実現について

問

① 町の取り組み状況が住民の皆さんに見える仕組みをどのように築き、プロセスを透明にしていくか。

② 10年後の住民所得1・2倍を目指す方策は。

③ 副町長人事も含め、新年度の体制づくりについて。

町長

① 新たに設置する庁議において、町の政策的懸念事項に関して、庁内における最終意思決定の場として審議し、決定する過程について議事録などを作成し、町のウェブサイトなどで公開することで、意思決定過程の透明性を図っていく。

② 長期的な視点に立ち、その中で民と官との協働を進めていくことが大切だと考えており、時間をいただいた中で、効果的な施策を検討する。

③ 副町長1名体制として町政運営を行っていく。

新年度の体制は、限られた人員の中で、各種事業の進捗状況などを考慮し、重点的に職員を配置することにより対応していく。

問

職員の改革の部分で、人材交流制度を活用して教育という場面に使っても良いのでは。

町長

国との交流、公務員との交流、民間との交流、そういったものというのも当然視野に入れながら、職員の能力アップをしていきたい。



在来線のあり方が問われる